

あの単語の意外な意味シリーズ

VOCABULARY

March 30, 2012

1 はじめに

普段なにげなく使っているあの言葉には、マイナーな意味が隠されていることが多々あるわけです。初心者向けに一つ例を出しましょう。

ハカセ：「やあ、すすむくん、よく来たね。今日は私に質問かい？」
すすむ：「うん、ハカセ、英語で釣り銭ってなんていうんだい？」
ハカセ：「”change”だね。」
すすむ：「えっ、”change”ってあのチェンジ？オバマ大統領の？」
ハカセ：「そう、”change”には釣り銭という意味もある。」
すすむ：「うそだあ。」

”change”に釣り銭の意味がある事は良く知られている事実なのですが、”doctor”の裏の顔や”cow”の動詞の意味などは知らない人もいないのではないのでしょうか。

それでは、あの単語の意外な意味シリーズ、始まりです。

2 他動詞 cow

ハカセ：「すすむくん、次の文をみてごらん。」

The protesters had been cowed into submission by the police.(LDOCE5 より)

すすむ：「不思議な文だね。名詞の”cow”に”ed”がついてるよ。」
ハカセ：「ここでは”cow”は名詞ではなくて動詞なんだよ。」
すすむ：「うそだ、学校では”cow”は『メス牛』だとして習わなかったぞい。」

⇒あまり知られていないのですが、“cow”には動詞があります。ロングマンの定義では、「to frighten someone in order to make them do something: cow sb into sth」となっています。要するに、人を脅して何かさせる、という意味です。主に“be cowed into submission”のかたちで使われます。

⇒“cow”が「脅す」の意味で使われているのを見ると、昔の酪農家たちが牛たちに残酷であったことがうかがえますね。

3 他動詞 doctor

ハカセ：「すすむくん、次の文をみてごらん。」

He had doctored his passport to pass her off as his daughter.(LDOCE5 より)

すすむ：「まちがいみつけた。“doctor”に“ed”がついてるよ。」

ハカセ：「いいや、あっているんだ。ここでは“doctor”は動詞なんだよ。」

すすむ：「学校では『医者』だとしか習わなかったぞ。」

⇒人の命を救う“doctor”には裏の顔があります。他動詞“doctor”は、悪い意味でしか用いられません。会話中に出て来た例文の“doctor”は、「改ざんする」という意味。他にも、「(食べ物に) 毒物を混入させる」だとか、「去勢する」だとかのいみがあります。

⇒うまく働くように体を改変するのがいい“doctor”。手術ですね。悪い方向に改変して行くのが他動詞“doctor”なわけですね。